



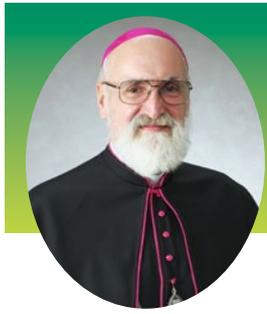
南の光明

The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標
 神に希望の錨をおろすなら
 すべては祝される

〒902-0067 那覇市安里3-7-2
 カトリック那覇教区本部
 TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
 発行人 W.F.バートン司教 1部40円
<http://www.naha.catholic.jp/>

(1) 2025年 4月1日 (毎月1日発行) カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ 第797号 (4月号)



カトリック那覇教区
 ウェイン・F・バートン司教

2025年復活祭メッセージ

キリストの復活は希望の光、救いの道！



「ご復活おめでとうございます。今年も私たち教会共同体は、新たな兄弟姉妹を迎えた喜びに満ち溢れ、キリストの神秘体の成長に歓喜の声を上げています。受洗者の皆さん、心からお慶びを申し上げます。

復活された主イエスは、すべての受洗者の心にこのようなメッセージを語りかけていると感じています。「わたしは、いつもあなたのことを見つめています。あなたのすべて、こころの隅々まで理解しています。髪の毛の数さえ数えるほどにあなたは私にとって大切な人なのです。あなたの過ごしてきた年月を私は共に過ごして来ました。一瞬も離れることなく、あなたに寄り添っていたのです。喜ぶあなたを見て喜び、悲しむあなたのためばで泣き、苦しむあなた

の苦しみを共にし、傷つくあなたに涙し、悪さや罪に苛まれているあなたの咎をこの身で引き受け、あなたがいのちを失うとき、私

がその死と苦しみを引取ります。あなたが心の奥底で何に悩み、何を求めているのかを知っています。あなた自身も気づいていない心の渴きをもわたしが潤します。わたしの愛を受けとってください。」

わたしたちすべての受洗者は、このようにイエス様の最高の愛を受けとるために、洗礼の恵みをいただきました。そして、その愛に生かされ続けています。

たの苦しみを共にし、傷つくあなたに涙し、悪さや罪に苛まれているあなたの咎をこの身で引き受け、あなたがいのちを失うとき、私

私たち受洗者にとって、最も大切なお方の姿を見失ってははいけません。主イエスが十字架の苦難と死の暗闇を通過して復活し、新たないのちに輝いたように、私たちは常に新たないのちの輝きを身にまとう者となつていくのです。なぜなら私たちひとり一人がキリストの神秘体なのですから。

復活の主に出会ったときのことを今一度想像し、思い起こしましょう。幼児洗礼であれ成人洗礼であれ、ひとり一人の受洗は、その一つ一つが復活の主イエスとの出会いの場、主との愛における一致の実現です。その出会いと一致によって私たちは主の復活のいのちに与り、もはや失われることのない永遠のいのちに生きる者となりました。ですから、目に見えて自分の姿は、老いや病、過ちや罪、不誠実や虚飾などによって愛といのちの危機に瀕しているかのように見えても、決して滅び去ることはないのです。わたしの弱さの中にこそ、復活の主の愛の力は発揮されるからです。

さあ、また、希望をもって新たに歩み始めましょう。常に新たにされるキリストのからだに属する者としての歩みを、復活の主の美しさを身に帯びた者としての歩みを、御父への道を、希望のうちに。

「生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。」(ガラテヤ二・20)。



Easter Message from Bp. Wayne

Happy Easter! This year, our church community is filled with joy as we welcome new brothers and sisters into our midst. I offer my heartfelt congratulations to all who have been baptized this Easter.

Now I am going to ask you to use your imagination to think about Jesus. Imagine that Jesus is standing in front of you just before you are about to be baptized. What would he say to you? I will go first using my own imagination. In my imagination, I think that Jesus would say something like this to me.

"I have always been with you since you were born. I understand everything about you, every part of your heart. You are so precious to me that I can even count the number of hairs on your head. I have been close to you, never leaving your side for a second. I rejoiced when I saw you happy, I cried beside you when you were sad. I shared your pain; I shed tears for you when you were hurt; I bore your guilt when you were tormented by evil and sin. I know what you are worried about and what you are seeking deep in your heart. Even now I am quenching the hunger and thirst you have in your heart for love. Please receive my love through this baptism."

In my imagination, this is what I think that Jesus would say to me. What would Jesus say to you? Everyone will be a bit different, but all the messages from Jesus would be special for the person about to be baptized.

All of us who have been baptized have received this kind of love from Jesus. After our baptism as well, throughout our whole life and beyond, we will continue to receive this love from Jesus.

So let us once again recall what we experienced when we first encountered the Lord. Whether it was in infant baptism or in adult baptism, each baptism is a place of encounter with the Resurrected Lord Jesus. As baptized people, we must not lose sight of the most important person in our lives. Just as the Lord Jesus rose from the dead after passing through the darkness of death and suffering on the cross, we are always clothed in the radiance of a new and eternal life, for each one of us is a part of the mystical body of Christ.

Having shared in Christ's death and resurrection through Baptism, we can make this profession of faith with St. Paul: "It is no longer I who live, but it is Christ who lives in me. And the life I now live in the flesh I live by faith in the Son of God, who loved me and gave himself for me" (Galatians 2:20).

May God shower you and your family with blessings, love, and peace this Easter!!!

Maligayang Pasko ng Pagkabuhay!

Felices Pascuas CHÚC MỪNG PHỤC SINH

2025年3月拡大司祭・助祭会議議事録

開催日時：2025年3月4日(火) 10:00～12:00 於・安里教区センター

出席者：ウェイン司教、押川名誉司教、クレーバー神父、ナビーン神父、マキシム神父、デニス神父、サニー神父、リカルド神父、ロドニー神父、フランシス神父、ヨアキム神父、ブイ神父、マイケル神父、ピーター・チェ神父、藤澤神父、古川神父、石垣助祭、マーシーさん、津波古聡、新田選。

欠席者：ボスコ神父

1. 報告及び連絡事項：司会はクレーバー神父が担当、開式の祈りはウェイン司教が担当した。

- ・前回(2月会議)の報告を新田が行い、承認された。
- ・出張、休暇、研修等の不在予定の報告が行われた。
 - ーボスコ神父 2月13日～3月13日 休暇 ベトナム
 - 3月20日～22日 幼きイエズス会終生誓願式 大阪
 - ーピーター・チェ神父3月18日～20日 ベトナム人司牧者の集い 福岡
- ・人事異動に関して、現段階での状況が説明された。藤澤神父と古川神父が修道会の都合により、復活祭後、那覇教区を離任し異動となることが報告された。さらにサニー神父も研修のため、那覇教区を長期不在となることが報告された。また、横浜教区から濱崎神父が、長崎教区から1名の司祭が復活祭後に着任されることも合わせて報告された。後日、その他の教区内の人事異動も発表されるが、該当する司祭と面談の上、決定してゆく。なお、関係する司祭は復活祭後の復活節第2主日から転任先でミサが行えるよう互いに連絡調整して、準備するよう要請がなされた。
- ・フランシス神父から「教区の日」についての報告が行われた。特に新しい試みとして祝賀会への移行や出席者の移動に工夫して準備したが、祝賀会の開始前から食べ始めたり、飲み物に手を伸ばす姿が見受けられ、残念に感じられたこと等が反省点として挙げられ、今後も会場のセッティングをもう少し手際よくできないか検討し、より良い行事にしていくことが報告された。ウェイン司教からは、再度お祝いの対象年の確認が行われ、ヨベルの年に因んだ教会の伝統に従い、司祭は叙階25周年・50周年・75周年を対象とし、修道者は誓願50周年・75周年を、同じく信徒は結婚50周年75周年をお祝いしていくことが確認された。また、典礼に関連してブイ神父から、司祭の座席の向きについて指摘がなされ、祭壇を囲むという意味で会衆に向かって対座するのではなく、祭壇に向かって座るべきとの指摘があり、教区行事の際の司祭団の座席の向きを修正すべきことが確認された。
- ・司祭叙階25周年のお祝いを受けたフィリピン宣教会のリカルド神父(読谷教会主任)から感謝の言葉が司祭たちに述べられ、4/30日にフィリピンの出身教会でも感謝のミサを捧げるので、引き続きお祈りくださいとの要請があった。
- ・ウェイン司教から臨時司教総会について、那覇教区に直接関連する審議事項の報告がなされた。
 - 1)『堅信式』の儀式書の改定版が認可され、教皇庁典礼秘跡省の認証手続きに入ること。
 - 2)『ミサ以外のときの聖体拝領と聖体礼拝』の改訂新版が承認されたこと。
 - 3)戦後80年司教団メッセージと関連行事について、等が報告された。中でも戦後80周年を迎える今年は、6・23の沖縄慰霊の日や8/6の広島原爆の日8/9長崎原爆の日の慰霊行事に司教団として参列することとなったため、この件については、後の審議事項で「慰霊の日」の慰霊行事の持ち方について検討することとした。
- ・東京江東区潮見にあるカトリック中央協議会の建物は、外壁等の大規模な改修工事に取り組んでいて、これから宿泊棟の内装リフォームに着手するため、当面宿泊ができなくなるのがウェイン司教から報告された。
- ・2/16安里教会にて、サン・パウロ大司教区から沖縄を訪問された赤嶺大司教一行との共同司式で主日のミサが捧げられ、その後ウェイン司教と押川名誉司教による歓迎と交流の集いを持ったことが報告された。
- ・マーシーさんから、カリタス沖縄の取組として、牧志公園で炊き出しを行ったことが報告された。100名分を用意したが、すぐに無くなったことからこれまで以上に需要が増大しているため、聖年の今年は、11月頃にチャリティーコンサートを企画して、更なる食糧支援に役立てていきたいこと等が報告された。物価の高騰によって難しい状況ではあるが、出来るだけ多くの協力を得て、炊き出しや傾聴の充実に取り組んでいきたいとの報告があった。
- ・人事異動について、ウェイン司教から要請が行われた。今後、状況によっては1人の司祭が2つの教会を受け持つことも視野に入れて、近隣小教区間の協力体制を構築して欲しい。各地区の司祭たちで話し合せて、今から協力できるところは互いに支え合せて欲しいとの依頼が行われた。
- ・3/21(金)の「性虐待被害者のための祈りと償いの日」に関連して、パンフレットが届いているので、小教区に持ち帰って活用されるよう、担当のマーシーさんから要請が行われた。また、様々なハラスメントについても、司祭たちには自らを省み、言動に気を付けるよう要請が行われた。
- ・カリタス・ジャパンから四旬節のポスターと「愛の献金箱」が届いているので、小教区に持帰って掲示、活用されるよう要請があった。

2. 審議事項

- ・聖香油ミサについて、ウェイン司教から日時の再検討が提案された。規定では聖週間中に行うように定められている。審議の結果4/15(火)に午後3時から司祭・助祭拡大会議を行い、休憩を挟んで、午後5時から聖香油ミサを行い、その後司祭団の夕食会を持つことが提案され、了承された。
- ・上記の司教会議での決議を受け6・23慰霊の日について検討した。これまでの仕方を大幅に変更して安里教会でのミサを中心にした新たな形が提案されたが、司祭団の強い意見により、例年通りの仕方を基本とすることとされた。従来のように小祿教会で午前6時のミサを捧げて、魂魄の塔まで巡礼を行うが、司教団の参加や他府県からの参加も増えることが予想されるので、巡礼の仕方にバスでの巡礼参列を加える方向で検討していくことが確認された。
- ・聖年の月ごとの聖体礼拝担当教会について、忘れることがないように、聖年担当のヨアキム神父から担当教会の主任司祭に前もってメールで通知することが確認された。
- ・司教の予定 ー3/16 石川公式訪問 ー3/23 傾聴講習会:文化センター

※ 次回司祭助祭拡大会議は4月15日(火) 午後3時から、安里の教区センターで開催される。



イエス・キリストは 我らの復活

クレーバー・デ・ソウザ神父

与那原教会 主任司祭



にとつてクリスマスに劣らず大事なお祝いです。日本ではイースターという英語の呼び名が一般的です。イースターをお祝いする時、英語では「ハッピー・イースター」と言います。クリスマスは「メリー・クリスマス」ですが、

で済むのなら聖書なんか要らなくなります。

イエス様の十字架と復活の出来事はなぜ起きたのか、それらは一体何だったのかということは聖書全体を通してみないとわからないようになっていきます。聖書全体を踏まえて、それらがなぜ起きたかがわかると、たちまちそれは私たち人間のため、時代と国を超えて全ての人のために起きたということがわかり、イースターは本当にハッピー・イースターだとわかります。そういうわけでイエス様の復活は今を生きる私たちに大いに関係があるハッピーな出来事なのです。イエス様の十字架と復活の出来事を純粹に歴史上の事件としてみるとこうなります。現在のイスラエル国の北部ガリラヤ地方のナザレ出身のイエスが当時のユダヤ教社会の宗教エリートに批判的な教えを説き多くの支持者を獲得した、そのため指導層の反感を買って当時ユダヤ民族を支配していたローマ帝国の官憲に引き渡されて処刑された、ということ

になります。しかし、それは見かけ上の出来事です。聖書という書物は万物の創造主であり人間の造り主でもある神が人間にどのような思いを持ちどんな計画を持っているかを知る唯一の手がかりです。

聖書をそのような書物であるとの立場に立つてみると、歴史の見かけ上の出来事の奥にある真実が見えてきます。その真実とは何か？それは、旧約聖書に記された神の計画がイエス様の十字架と復活という形で実現したということです。加えて、神がその偉大な力でイエス様を死から復活させたことで、死を超えた永遠の命があることがこの世に示され、そこに至る道が人間に開かれました。そこで人間が、これらのことは全部自分のために起こったのだとわかって、それでイエス様は救

いの主なのだ信じて洗礼を受けたら、イエス様が果たした罪の償いが自分の中に入ってきて自分のものになります。自分ではなく他人が償ってくれたというのは虫がよすぎた話ですが、償う相手が天地創造の神であれば人間には償いなど無理な話です。しかも償いをした方がそのひとり子ということであれば、この償いはかけがえのないもの決して軽んじてはならないものだとわかります。なにしろ罪が償われたということは、神がお前の罪を我が子イエスの犠牲に免じて赦してやると言つて下さっているのですから。こうなったら、もう軽々しい生き方はできません。新しい人生が始まります。イエス様の次の言葉から窺えます。「わたしの兄弟たちのところへ行つて、こう言いなさい。『わたしの父であり、あなたがたの父である方、また、わたしの神であり、あなたがたの神である方、わたしが上る』ここでイエス様は弟子たちに次のようなメッセージを送ったのです。「今、復活させられて復活の体を持つようになった私は、私の父であり私の神である方、わたしが上る存在になった。そして、その方は他でもない、お前たちにとつても父であり神なのである。」(五ページへ続く)

十字架にかけられて死んだイエス様が天地創造の父なるみ神の想像を絶する力で復活させられたことを記念してお祝いする日です。イエス様が死んで葬られた次の週の初めの日の朝、かつて付き従っていた女性たちが墓に行つてみると入り口の大石はどけられ、墓穴の中は空っぽでした。その後で大勢の人が復活された主を目にします。まさにここから世界の歴史が大きく動き出すことになったと言っても過言ではない出来事でした。復活祭は、キリスト教会

イースターは「メリー」ではなく「ハッピー」です。復活祭の何が私たちをハッピーにさせるのでしょうか？昔々イエス・キリストという偉い人が十字架刑という惨い殺された方をしてしまったが、三日後に見事に蘇つてみんながハッピーになったということでしょうか？マジックショーじゃあるまいし、そんな理解

イエス様は「メリー」ではなく「ハッピー」です。復活祭の何が私たちをハッピーにさせるのでしょうか？昔々イエス・キリストという偉い人が十字架刑という惨い殺された方をしてしまったが、三日後に見事に蘇つてみんながハッピーになったということでしょうか？マジックショーじゃあるまいし、そんな理解

イエス様は「メリー」ではなく「ハッピー」です。復活祭の何が私たちをハッピーにさせるのでしょうか？昔々イエス・キリストという偉い人が十字架刑という惨い殺された方をしてしまったが、三日後に見事に蘇つてみんながハッピーになったということでしょうか？マジックショーじゃあるまいし、そんな理解

イエス様は「メリー」ではなく「ハッピー」です。復活祭の何が私たちをハッピーにさせるのでしょうか？昔々イエス・キリストという偉い人が十字架刑という惨い殺された方をしてしまったが、三日後に見事に蘇つてみんながハッピーになったということでしょうか？マジックショーじゃあるまいし、そんな理解

幼い頃の祖父母と私の思い出の場所は、共に通った教会です。

私が小さかった頃、祖父母は私を教会へ連れて行ってくれました。そこは、信仰の場所であると同時に、私の遊び場でもありました。教会にいる周りの方々は、まるで家族のように温かく私を見守ってくれました。そんな環境の中で、私は愛情をたっぷり受けながら成長していきました。

たて軸よこ軸

私と教会

安里教会 具志堅 杏衣

教会での活動はたくさんありました。特に、日曜学校での聖書の学びや、行事の準備を通じて、私は多くの友達と出会い、協力の大切さを学びました。知らない人でも、信仰を共有していることからすぐに打ち解けられ、楽しい思い出がたくさん詰まっています。お菓子を分け合ったり、教会のイベントを手伝ったりすることで、同世代の子供たちとのつながりも深まりました。

しかし、中学生になって、私は部活動が忙しくなり、徐々に教会から足が遠のいてしまいました。忙しい毎日の中で、教会のことを忘れがちになり、心の中で少しずつ寂しさを感じるようになりました。テニスの練習や試合、友達との遊びは楽しかったのですが、教会での温かい雰囲気や、そこにいた大人の人や友達とのふれあいを思い出すと、何か大切なものを失っているような気持ちになりました。

今現在、大学生になって、また教会に足を運べるようになってきました。今までの育ててもらってた立場から、子どもたちに侍者としての役割を教える立場になっていきます。それでも、祖父母の教えや教会で得た経験は、私の心の中で大きな支えとなつていきます。困難に直面したとき、教会で学んだ信仰や価値観が私を助け、前向きな気持ちを持ち続けることができます。また、周りの人々の温かさや思いやりを思い出さず、自分も隣人に優しく接することが大切だと再確認できます。

感謝の気持ちを忘れずに、今後も自分が育った場所を大切にしたいと思つています。そして、大人になった時に、またこの場所に戻つて来れたらいいなと思つています。

同じ父、同じ神を持つ以上、お前たちも同じように上るのである。それゆえ復活は私が最初で最後ではない。最初に私が復活させられたことで、私を救い主と信じる者が後に続いて復活させられる道が開かれたのである。」

復活したイエス様は確かに傷は残っていたが、それは何の痛みも持たない、ただ単に過去にこんなことがあったと示すだけの干からびた痕跡にすぎませんでした。そうすると、復活の再会の時に目にするのは、この世を去る瞬間の容姿ではなく、その方の何かベストな状態の容姿ということになるのでしょうか？

もし、それがこの世を去る時の直近のベストな状態だとしたら、それは一目でその人だと分かつてしまいます。一目見てもわからないというのは、その人が辿ってきたいろんな年齢・段階の面影が一つに重なり合っている、ないしは混ざり合っているからではないかと考えるようになります。そのような重層的な面影を一目見た時どうなるか？

見た人はまだその方がこの世を去る時の容姿が頭にあるから、すぐにはわからない。ところが、何かがかみ合うとその人だと納得できる。そういうことなのではないかと考えるようになります。過去のいろんな面影と言ったら、苦しい時、辛い時の面影もあるでしょう。しかし、黙示録二十一章を見ると、復活後は涙もなく死もなく悲しみも嘆きもないと言っています。それで、復活の体が映し出す面影は全てベストなものではないかと思えます。イエス様が「天使のようになる」と言うのは、こういうことではないかと思えます。

ベストな面影とは言っても、受けた傷、心の傷、体の傷は消えずに残っているかもしれない。復活のイエス様にも十字架の時に受けた傷が残っていました。しかし、それはもう痛くも痒くもない干からびた痕跡のようなものでした。私たちの心の傷や体の傷も復活の日にそういうものになっているのでしょうか。御復活おめでとつございます。

「声」 角笛

シスターセシリア曾根聖 羅の終生誓願宣立式

泡瀬教会 曾根ルチア

去る三月二十二日、シヨファ
イユの幼きイエズス修道会本
部にて、シスター曾根聖羅の
終生誓願宣立式が行われた。
主司式は、前田万葉枢機卿様
で、七人の司祭方の共同司式。
沖繩からボスコ神父様が参加
された。

娘、聖羅は、当時泡瀬修道
院のシスター具志の招きでシヨ
ファイユの幼きイエズス修道会
の女子会の勉強会へ参加した。



幼児洗礼の聖羅は、ボスコ神父
様から特別に公教要理を学び始
めた。

二〇一六年四月二十六日、
幼きイエズス修道会へ入会式、
二〇一七年三月二十七日、修
練開始式、二〇一九年三月
二十三日、初誓願宣立式、そ
の時も司式前田万葉枢機卿様
によって執り行われ、「幼子の
如く聖羅や お告げ祭」と俳
句を頂いた。

その後、久留米大学へ入
学、優待生で卒業後、長崎信
愛幼稚園で勤務、二〇二四年
四月、終生誓願のため本部へ、
二〇二五年三月二十二

日、終生誓願宣立式を迎
えた。二度も司式、前田
万葉枢機卿様のミサ聖祭
「盛春(青春)誓願式 聖
羅かな」俳句を頂いた。

祝賀会は、孫達のエイ
サーやカチャーシーで
賑った。

四月より、東京修道院
へ、モンテッソリー講師
の勉学のお恵みを頂い
た。

シスター聖羅が、聖職



者として神様から頂いたお恵
みを全人類のために福音宣教す
る事は大きな喜びと希望であ
る。偶然、故憲一は、十三周
忌を迎える。きつと天国から孫
のシスター聖羅の姿を見て、応
援している事だろう。

ここまで来れたのもお会い
した全ての皆様からのお恵み
と祈りの支えだと思ふ。

聖年の盛春、勇氣と希望の
錨をおろし、神と共に使命感
をもつて歩めるよう祈る。

幸せそうな聖羅の顔観ると
私達も召命活動へ意識が必要
だと思つた次第です。

2025年聖年 公式マスコット「ルーチェと仲間たち」

ルーチェは、典型的な旅人の装いをしています。風雨から身を守るための黄色いアノ
ラックを着ており、汚れたブーツは彼女が歩んできた道の証です。首には宣教師の十字
架をかけ、手には巡礼者の杖を持っています。特に印象的なのは、強い光を放つルーチェ
の目で、それはすべての巡礼者の心に生まれる希望を象徴し、霊性や神とのつながりを
求める気持ちを表しています。その姿は、平和や兄弟愛といった普遍的なメッセージを
思い出させてくれます。ルーチェのようなマスコットが選ばれた背景には、新しい世代
にアピールし、世代を超えた対話を促進するという目的があります。このマスコットは、
聖年の象徴であると同時に、共同体や歓迎、分かち合いの象徴でもあります。



2025 聖年
希望の巡礼者
JUBILEE 2025 Peregrinantes in Spem

教区 NEWS 教会

司教の公式訪問と堅信式

安里教会

去る二月九日(日)に、安里教会の祝日(ルルドの聖母)を祝って、ウエイン司教様の公式訪問がありました。ミサの中で、堅信式が執り行われました。

司教司式のミサで堅信式が行われるのは数年ぶりのことで、教会全体が大きな喜びに満たされました。

大きなお恵みをいただいたのは、次の若者たち七名です。

(写真前列右から)

ガブリエル 石垣 真聖

ペトロ 本成 奏丞

ペトロ 新里 朋生

テレサ 大谷夏乃音

(ウエイン司教)

フランシス 大城 賢司

マリア 小川園乃香

エリザベト 本成このみ

(フランシス神父)

初聖体を受けてから堅信の秘跡の呼びかけに応えた若者たちが、これからの安里教会を支えて



くれるように祈ります。来年も多くの若者たちが神さまの呼びかけに耳を傾けて、堅信の秘跡の恵みに与ることができると励ましていきたいものです。ミサ後の報告会、懇親会には多くの信徒たちが参加し、長老の皆様の話も弾みました。今年も老若男女を問わず、元気な安里教会の船出ができそうです。(増田麻美)

日本カトリック司教協議会で認可している2つの「被災者のための祈り」は特定の災害に限定したものであるため、今後起こりうる災害に際しても対応できる祈りを、2021年度定例司教総会で認可しています。3月28日、ミャンマー中部でマグニチュード7.7の大地震が発生し、ミャンマーやタイで大きな被害が報告されています。多くの人々や教会、修道院、教区の建物が深刻な被害を受けていると報告されています。災害被災者のためにお祈りいたしましょう。

災害被災者のための祈り

父である神よ、
すべての人に限りないつくしみを注いでくださるあなたに、
希望と信頼をこめて祈ります。
災害によって、苦しい生活を送り、
不安な日々を過ごす人々の心を照らし、
希望を失うことがないよう支えてください。

また、亡くなられた人々には、永遠の安らぎをお与えください。
すべての人の苦しみを担われたキリストが
いつもともにいてくださることを、
祈りと行動によってあかしできますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

(2021年2月16日 日本カトリック司教協議会認可)

四旬節 LENT 2025 Caritas Japan カリタスジャパン 2025 四旬節 愛の献金 2025.3.5~4.17 わたしたちは、この希望によって神に近づきます。(ヘブライ7:19) © カリタス南三陸

計 報

◆開南教会

ルカ 具志堅 政正 様

二〇二四年五月六日 婦天

享年八十五

那覇教区女性の会



4.25 いのちの日 ミサ

日時：4月26日(土) 14時
場所：カトリック安里教会

聖香油ミサのお知らせ

日 時：4月15日(火)午後5時～
場 所：カトリック安里教会

※当日は駐車スペースに限りがありますので、満車の際はお近くの有料駐車場をご利用下さい。駐車中の他車の迷惑となりませんようご協力お願いします。

NPO 法人ぶどう園の会



訪問看護ステーションクララ

TEL&FAX:098-937-5001

住所 沖縄市泡瀬2丁目37-15

・基本受付 月曜日～金曜日(申込、相談など)

・営業時間 8:30～17:30

・営業日 24時間365日(緊急対応含む)



那覇教区子どもと女性の権利を擁護するデスク



相談窓口

☎098-863-2020

火・水・木

13:00～17:00



葬祭の「やすらい企画」

私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。

那覇市首里烏堀町4-57-3

TEL&FAX:098-885-8205

<http://w1.nirai.ne.jp/yasurai>

E-mail:yasurai@nirai.ne.jp

24時間受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
そうてんしゃ

葬 典 社

*創業30数余年・・・。

*皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。

*ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

ひが たかしげ
(実務担当) 比嘉 高茂

24時間
受付

てんごく

☎098-853-1059

